

自 己 評 価 書

(令和7年度)

令和8年2月

鳴門教育大学附属幼稚園

目 次

I	学校の現況及び目的	1
II	評価項目ごとの自己評価	3
	1. 教育課程・指導	3
	2. 保健安全管理	11
	3. 組織運営	15
	4. 研究と研修	19
	5. 教育環境整備	22
	6. 教育実習・インターンシップ等	23
III	自己評価別添根拠資料一覧	29

I 学校の現況及び目的

1 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属幼稚園
- (2) 所在地 徳島市南前川町2丁目1番地の1 (仮園舎：附属小学校多目的棟)
- (3) 学級等の構成
3歳児1学級、4歳児2学級、5歳児2学級
保育課程 2年保育、3年保育
- (4) 幼児数及び教員数(令和7年5月1日)
幼児数130人 教員数6人(正規教員)

2 目的

(1) 目的・使命

本園の目的は、附属幼稚園園則第1条において「義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長する」と定めるとともに、同条第2項では「幼児期の教育に関する各般の問題につき、保護者及び地域住民その他関係者からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行うなど、家庭及び地域における幼児期の教育の支援に努める」と定めている。

また、園則第1条には「鳴門教育大学における幼児の保育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする。」と定めており、具体的には教員養成大学の附属幼稚園として、次のような使命をもった幼稚園でもある。

- ①大学と一体となって、教育の理論及び実践に関する科学的研究を行う研究幼稚園としての使命
- ②地域の教育課題の解明、参観者への指導・助言、文部科学省・県教委・地教委等からの要請による教員派遣など、教育界の発展に寄与する使命
- ③鳴門教育大学の学部学生及び大学院生の教育実習等を行う使命

(2) 教育目標

本園は、園則第1条に示されている幼稚園教育の目的の達成のため、次のような教育目標を掲げている。

- ①自主・自立・創造・感謝の精神の芽生えを養うこと。
- ②健康でたくましい心身を養うこと。
- ③それぞれのよさや違いを認め、育ち合う感性を養うこと。
- ④身近な環境に対する興味や思考力の芽生えを養うこと。
- ⑤喜んで話したり聞いたりする態度や言葉に対する感覚を養うこと。

⑥創作的表現に対する興味や豊かな感性を養うこと。

(3) めざす子ども像

本園は、教育目標に基づき、次のように「めざす子ども像」を明確に示している。

- たくましい子ども
- しなやかな子ども
- 育ちあう子ども

(4) 令和7年度重点目標

鳴門教育大学・附属学校との連携をさらに密にし、中期目標・中期計画・本年度計画等の実現に努めながら、次の3点から教育目標の具現化を図る。

- ①幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた幼稚園教育の具現化を図る。
- ②「遊誘財」研究の成果を生かし、現代的な教育課題に係る研究・実践を推進する。
- ③大学、教育委員会との共同研究・研修を推進する。

(5) 評価項目

①教育課程・指導

- ・幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況
- ・科学的思考を促す幼小接続の生活プラン(教育課程・指導計画)に関する取り組み状況

②保健安全管理

- ・保健計画の作成・実施の状況、園の環境衛生の管理状況
- ・危機管理対策の見直しと強化

③組織運営

- ・園務分掌や主任制度が適切に機能するなど、園の明確な運営・責任体制の整備の状況
- ・教員のキャリアステージに応じた資質・能力の向上

④研究と研修

- ・幼児教育研究と園内外における研修の実施及び地域への貢献状況
- ・教育委員会並びに幼児教育関係者への研修支援等の状況

- ・地域住民への貢献

⑤教育環境整備

- ・設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のための整備の状況
- ・みどり会(保護者会)との連携

⑥教育実習

- ・専門性や実践力を養う教育実習の実施状況

Ⅱ 評価項目ごとの自己評価

評価項目1 教育課程・指導

(1) 観点ごとの分析

観点1-1 幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況

【観点に係る状況】

本園では、幼稚園教育要領に基づく指導内容・方法を明確にし、本園の伝統や特性を生かした教育課程・指導計画である「生活プラン」による保育を進めている。

今年度は、園舎全面改築となり、環境の変化にともないながら保育を創りあげていくことになった。これまで引き継がれてきた「子どもと創る保育」、「遊誘財」の理念をいかし、予測が難しい状況の中で保育を創りあげていくという、ある意味、これまで根付いてきた本園の保育理念や方向性を存分に発揮し、確認できる貴重な機会と考える。

教育課程のもと、附属小学校多目的棟1・2階を園舎、校庭の一部と中庭を園庭とし、新年度を迎え子どもたちとの新たな生活を始めた。

- 日々の保育でよりよくを目指して環境を整えていく。
- 本園の保育理念である「子どもと創る保育」は場所が変わってさらに展開する。
- 子どもたちから環境や遊びのアイデアがだされ、それを実現できるように試行錯誤する。
- 小学校との教育活動、場の共有などでの話し合いや共通理解を進める。
- 保護者への情報発信、保育への理解を促進する。

生活の充実に向けて、試行錯誤は繰り返され、子どもの姿や遊び、行動など生活の全てに「学び」があり、保育者はもちろんだが、子どもとの対話や「こうしたい」が日々数多くこなされ、仮園舎での「子どもと創る保育」が展開された。

本園の保育理念である「子どもと創る保育」は、環境を通して子どもが主体的にかかわろうとする過程において子どもはよく考え、真剣に物事に向き合い、状況や雰囲気をもよほりながら感性を十分に働かせる。その経験そのものが「学び」であるとしている。それを可能にするためには、環境の一つでもある保育者の基本姿勢が重要である。

「子どもと創る保育」に示されている保育者の基本姿勢は次のとおりである。

○保育の基本姿勢

人の生涯の基盤となりうる「人間性」を養う保育を目ざしている

1. 真に子どもたちのための保育を創造すること
2. 豊かな環境作りを重要な任務とすること
3. 子どもらしく遊ぶ生活を創造すること
4. 子どもたちの可能性を信じて、一人一人に合わせた指導をすること
5. 子どもと共に子どもの自治を大切にしたい園生活を営むこと

その日々の生活や指導の中に、「保育者の基本姿勢」があることが重要である。本園では、それぞれの担任と担当者が、毎月の指導計画の具体化を行っている。それにより自分以外の保育者の考え方に触れたり、他の保育者からの意見を聞いたりすることができる。幼児理解や関わり、日々の生活の中に幼児の学びや成長があり、それらが教育課程によって確かに示されていることや支えられていることを実感し、文字が表すその豊かで細やかな内容を実際の保育として具現化できるように進めていく。

【分析結果と根拠理由】

幼稚園教育要領に示されている幼稚園教育の基本

- 1 人格形成の基礎を培うこと
- 2 環境を通して行う教育
- 3 幼稚園教育の基本に関連して重視する項目
 - (1) 幼児期にふさわしい生活の展開
 - (2) 遊びを通しての総合的な指導
 - (3) 一人一人の発達の特性に応じた指導

これらは、本園の教育課程である「生活プラン」によって実際の保育や子どもの姿に表わされている。さらに、これらを実際の保育とをつなぐために、「生活プラン」の月別指導計画シートを作成し、各担任・担当が毎月これを活用し、指導計画の具体化を図っている。それらを持ち寄り、全体打ち合わせと指導の評価を実施し、仮園舎という環境の変化も踏まえながらカリキュラム・マネジメントを行った。

毎月の指導計画の具体化シートを持ち寄っての職員の共通理解や子どもの姿をどう捉えるかなど話し合いをしながら、日々の保育が質をともなっていくように保育の計画や見直しをした。

生活の豊かさや子どもの主体性・創造性を支える保育者の在り方を模索し続ける保育者によって、教育課程・指導が充実したものとなっている。それはアンケートに表れている。

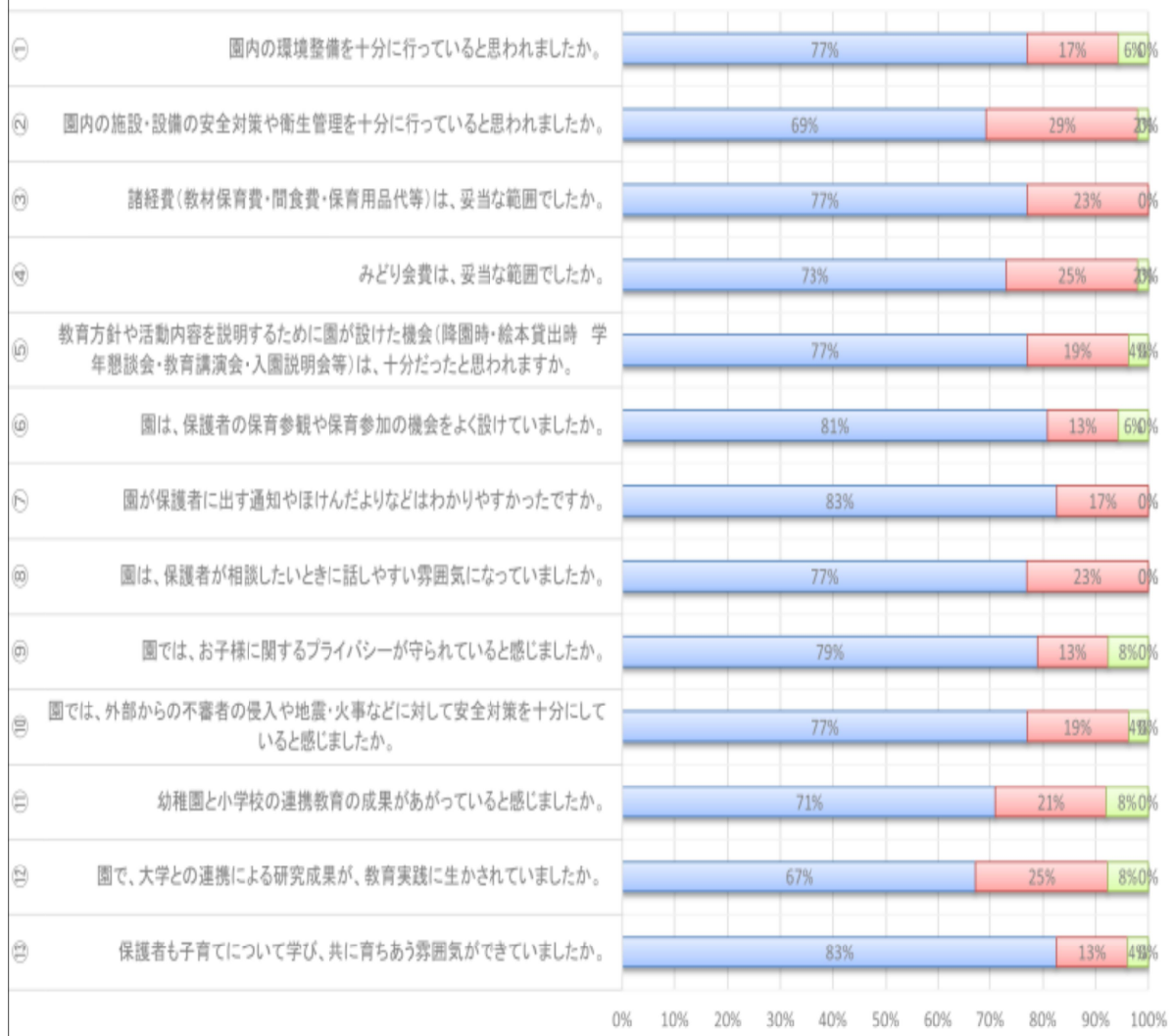
令和7年度幼稚園評価アンケート結果（年長児保護者：アンケート回答者：52名）のアンケート集計結果によると、本園の教育活動については、すべての項目で「思う」「だいたい思う」が90%以上となっており高い評価が得られている。

令和7年度幼稚園評価アンケート結果（一部抜粋）【別添資料1-①】

実施日	令和8年1月17日（土）		
対象	年長児保護者 52名		
内容	I 園の運営管理について	4段階評価及び自由記述	
	II 教育活動について	4段階評価及び自由記述	
	III その他	自由記述	

園の管理運営について(13項目)

□ そう思う □ だいたいそう思う □ あまり思わない □ そう思わない



教育活動について(18項目)



このような、本園の教育への理解には、これまでの伝統と継承され続ける教育課程、その教育課程についての研究を行っていることが大きな要因であると考えられる。これらの基本の部分をもって実際の保育から感じられたり観えたりしたことが、教育課程の実施の有効性や幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導が実施できているという評価につながっている。

別添資料 1-① 令和7年度幼稚園評価アンケート結果報告書
 別添資料 1-③ 生活プラン

観点1-2 科学的思考を促す幼小接続の生活プラン（教育課程・指導計画）に関する取り組み状況

本学の推進する幼小中一貫型教育プランの一つである、「幼小連携の科学的思考力涵養のプログラム」のもと、積極的な幼小の合同保育／授業の展開と改善がなされている。文部科学省は、幼小架け橋プログラムを推進しておりカリキュラムの作成にとどまることのない実践を求めている。

今年度は園の改築がかかり仮園舎を小学校に置いたことにより様々な課題が浮かび上がってきた。まずは、幼稚園教育への理解が進んでいないこと。物理的なことと内容が混同し、幼小接続の根本の揺らぎが大きかった。

これを受け、再度幼小接続について基本を確認したり、小学校教諭への説明や情報提供を行うことで、互いの教育の理解の深まりや、幼児・児童の成長発達をつながりが捉えられるよう「ねらい・内容」に実践が沿っているかどうかを確認しながら実践を行った。

また、本大学の第4期中期計画・中期目標である、附属校園が連携したSTEAMIC教育の推進では、幼児期の遊びの中に「どのような」学びが捉えられるのかを遊誘財が遊びを誘発するプロセスや幼小連携の科学的思考力涵養のプログラムを活用し、事例分析しSTEAMICの要素を洗い出している。さらに、教育県教育委員会や郡市教育委員会が実施する法定研修や基本研修、県・郡市幼児教育研究会でも、幼小連携の科学的思考力涵養のプログラムやSTEAMIC教育研究の県下への普及を図っている。

【観点に係る状況】

1. 幼小連携の科学的思考力涵養プログラム

(1) 教育目標

－「育てたい力」－

- ①「わくわく ときどき」感動する心を育てる。
- ②人間の本来の知的喜びを、身体感覚を通して呼び覚ます。
- ③知恵のある生活（くらし）を受け継ぐ者として育てる。
 - ・地域（日本）の衣食住の様々な共有体験を豊かにする。
 - ・自然と一体化して生きていく生活を豊かにする。
 - ・生活の中の様々な問題を解決していく中で科学的思考力を身に付けていく。
- ④人間を理解し関係を調整していこうとする力を育てる。

(2) プログラムの内容・方法

幼児期は事象に対する直感的感性的把握と試行錯誤の時代で、感性を構成する要素である、気付く・感じる・考える・関わる・行動するが順に意識化され、次第に高次化され、発展していく特性をもつ。事象に対する感受性（気付く、感じる）や思考性（思う、考える、創造する）が活動性（関わる、行動する）と関係しながら循環的に働き、かつ、その相互作用によってそれぞれの働きがより活発になっていく。幼小連携の科学的思考力涵養プログラムでは、以下のABCDのカテゴリーの活動を誘発し、幼児との相互作用の中でより豊かな学びを生み出していく環境、つまり、遊誘財を活用し保育展開をすることが有効である。このように展開された保育は、STEAMIC教育の要素を必然的に包括している。

A. 発見と問題解決

①好奇心・試行錯誤

- 美しいものや不思議なもの、未知のものなどに驚嘆したり、関心をもってかかわったりしようとする。
- 多様なものにかかわって、周囲の子どもたちや大人にたずねたり、自分で調べたり試したりしながら、試行錯誤する過程を楽しみ、そのものの特性に気付いたりする。
- 発見した喜びを味わったり、人に伝えたりして、意欲的に表現しようとする。
- 「なぜ、どうして」などと想像したり、自分のイメージで新しいものをつくり出そうとしたりする。

②論理的に理由付けされた行動

- 季節や天候にあわせて服や道具を使いこなす。(帽子・手袋・上着・雨傘など)
- 使った遊具や用具を片付けるとき、正しい場所に置く。
- 遊びに必要なものをそれぞれの置き場所から取る。
- 最初と最後の様子や過去と現在の状態から、つながりや因果関係を考えたり予測したりする。
- 自然に触れる中で、ものの仕組みや法則に気付く。

B. 言葉への関心

①話すこと・聞くこと

- 人の話や絵本・図鑑、テレビや新聞などの情報から、自分の周りの出来事に関心をもつ。
- うなずいたり相づちを打ったりしながら相手の話を聞き、「なるほど」と納得したりする。
- 主述をはっきりさせて自分の意見を言う。
- 出来事やものの特徴を、かかわっているものやことと結びつけながら、自分の言葉で説明する。
- 比喻や例を用いて話したり説明したりする。
- しりとり遊びやなぞなぞ遊び、カルタ遊びを楽しむ。
- 好きな絵本がいくつかあり、その内容について意欲的に話そうとする。
- 絵本を読んだ後やその日のミーティングなど、話し合いに参加する。
- トラブルが発生したとき、その理由を言葉で説明しようとする。

②書くこと

- 書いてあることに注意を向けたり関心を示したりする。
- 自分の名前が分かり、平仮名で書ける。
- 書きたいと思い、文字や表示(ロゴ)などを見ながらまねて書く。
- 友達と一緒に、絵本や表現して遊べるものをつくったりすることを楽しむ。(手紙・看板・メニュー・標識・切符・券・名札・カードなど)

C. 数量と図形(平面・立体・空間)

①数理的な見方や考え方や表現

- 対象を比べる
 - ・並べたり、重ねたり、入れ替えたりして、長さや大きさや強さや早さなどを比べたりしながら、ものの数(数量)を見つけ出す。
長いー短い(長さ) / 大きいー小さい(体積) / 多いー少ない(容積) / 重いー軽い(重さ) / 強いー弱い(強さ) / 早いー遅い(時間) / 速いー遅い(速さ) / 冷たいー熱い(温度) など
 - ・ものの形(図・形・空間)の違っている所(共通・相違点)に気付く。
長いー短い(長さ) / 高いー低い(高さ) / 深いー浅い(深さ) / 広いー狭い(面積) / 丸いー角い(角度) など
- まとまりのある3つの群について、多少の区別をする。
($A > C > B$) / ($A = B = C$)
- 毎日の欠席調べやけが調べで、誰も該当する人がいないときに0人だという表現や、お皿のクッキーを食べてしまったときに、全部無くなった(0個)と言うような表現を用いる。(0の概念形成)
- 人・個・本・枚など数詞を遣って話す。
- ～と比べて、～の方が、一番～など、関係を比較して表現する言葉を遣う。
- 今日の日付や曜日、現在の時刻を言ったり、時間や月日の順序を考えて話したりする。

②数えること・まとまりで把握すること(分離量や連続量)

- 生活の必要に応じて、事物を指さして数えたり、1対1対応させながら数える。
(例; 30人くらい的人数に合わせる。縄跳びやおやつ作りなど)
- 求めに応じて、「〇〇を〇個」、「〇〇を〇個」、「〇〇を〇個」など、種類や数の違うものをとる。

- 前から○人目、右から○番目、下から○段目など順序や位置関係が分かる。
- 学級の友達と人数やものの個数を意識しながら、テーブルセッティングをする。(カレーライスやクッキーなど)
- お茶や牛乳などの液体を、同じサイズのコップでほぼ同じ量につき分けようとする。
- ひもや紙やホットケーキなどを、同じくらいの長さや大きさに切ったり分けたりしようとする。

③図形(平面・立体・空間)

- 体(目・鼻・耳・口・頬・眉・額・髪・腕・足・手など)やものなどの部位を意識して全体をつくったり描いたりしようとする。
- 興味をもったいろいろなものを模写しようとする。(例:動植物や図や国旗や絵本など)
- 異なった形を区別して使用したり片付けたりする。(例;木の実や木の葉など自然素材や、ブロックや積み木・ままごと道具など分類して片付けたり使用するなど)
- 上から何段目、左から何番目など置き場所がわかる。
- 形や凹凸などの形状がきちんと当てはまるように注目しながら、作品や片付けを完成させることを喜ぶ。(ジグソーパズルや自作の遊具など)
- 折り紙を折ったり展開したりして器や立体をつくる。
- 真ん中や中心が分かって、バランスよくものをつくったり動かしたりする。
- 上下・左右・前後・斜めの空間的位置が分かり、動いたり人に伝えたりする。
- 積み木や空き箱・木片などを組み合わせて、家や基地、遊具などをつくる。

④パターンと組み合わせ

- ものの形(大きさ・長さ)や色の形状や特徴に応じて並べる。
- パターン化された6つくらいまでの物の数が直感でわかる。(例:トランプやサイコロの目)
- 並んだ絵の繰り返しに気付き、次にくるものを予測して楽しむ。
- カレンダーに関心を持ち、生活の中で意識したり使ったりする。
- 日常の生活のリズムをつかんで、活動を見通したり、準備や始末をしたりする。
- いくつかの特徴で事物を分けたり仲間(集合)作りをしたりする。
- 自分自身でパターンをつくって楽しむ。(例 ビーズや木の実のアクセサリー・ものを描いたり物語を書いたり・動きの表現の中で)
- 拍やリズムに興味をもって、まねたり、呼応したり、替え歌をつくったりする。

D. 協同的感性

①協同的な言葉や表現

- 友達と一緒に歌ったり踊ったりして共鳴することを喜ぶ。
- 役割を分担したり、役に合わせた表現を工夫してごっこ遊びを楽しむ。
- 友達と活動の目的や目標などについて話し合う。
- 相手の意見と自分の意見の違いや共通点について気付き、話し合う。

②人間を理解し関係を調整する力(21項目)

- 異質なものの出会い
 - ①自分の思うようにならないことを体験する。
 - ②必要なときに、人に助けを求める。
 - ③他者が「いや」という行為や事柄に関心をもつ。
 - ④自分がされて嫌なことには、そのことを態度や言葉で表現する。
 - ⑤嫌なことを受け流したり、距離をおいて付き合ったりする。
 - ⑥自分と異なる行動や意見に対して考えるゆとりをもつ。
- 異質なものへの興味や関心
 - ⑦他者の行為や言葉に関心をもつ。
 - ⑧他者の思い入れや思い入れのあるものに気付く。
 - ⑨他者の言い分に真剣に耳を傾けて聴く。
 - ⑩感情を込めた言葉や論理的な言葉で伝えたり説明したりする。
 - ⑪他者の行為の意味について想像力を働かせる。
- 他者との交流
 - ⑫友達の遊びや活動に入ったり、友達を誘ったり、受け入れたりする。
 - ⑬活動や遊びの中で、やりたいことをしたり、なりたい自分を表現したりする。
 - ⑭イメージを共有したり、役割を分担したりしようとする。
 - ⑮自分の気持ちや行動、他者からの評価などの変化に気付いたり関心をもったりする。
 - ⑯自分や他者の良さに気付いたりそれを生かしたりする。
 - ⑰自分と違うところをもつ人に憧れる。
- 関係性をつくる

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ⑱ 友達や他者に共感したり応援したり励ましたりする。 ⑲ 仲間のトラブルに介入したり、関係を調整したりする。 ⑳ 緊張した場面をユーモアで和ませたり解決したりする。 ㉑ 問題に対して創造的に解決しようとする。 |
|---|

【分析結果と根拠理由】

幼児期から児童期を一つの枠組みとした接続期を設定して、「発見と問題解決（①好奇心・試行錯誤 ②論理的に理由付けされた行動）」、「言葉への関心（①話すこと・聞くこと②書くこと）」、「数量と図形（平面・立体・空間）（①数理的な見方や考え方や表現 ②数えること・まとまりで把握すること（分離量や連続量） ③図形（平面・立体・空間）④パターンと組み合わせ）」、「協同的感性（①協同的な言葉や表現 ②人間を理解し関係を調整する力（21項目）」の項目が設けられている。このことによって遊びが、何を育てているのかが具体的になり、遊びが学びであることに納得ができる。この学びのプロセスに気付く、幼児の遊びや活動から教育的価値を見いだす力量がついていくと考える。

令和7年度幼稚園評価アンケート結果報告書の高い評価や記述にある「自主的に」、「いきいきと」、「自分のやりたいことをとことん」という見取りには、学ぶ喜びやさらに学びを深めようとする幼児期の特性等を活かした教育方法への理解が垣間見える。

（2）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

保育者自身が教育課程をどう読み解き保育を展開していくかは、保育者の生活感・生活力やキャリアによって違いがある。その違いも保育の豊かさにつながるものはいかし、改善が必要な場合は、指導計画や実践をとおして教育課程に即したものとなるように努力している。子どもをいかに信じて日々の生活を進めていくか、信じた結果、豊かに育つ子どもたちを目の当たりにして保育の面白さを実感したり「子どもと創る保育」の具現の難しさを感じたりしながら日々の保育が進んでいる。

この営みが保育の現場にあるかということ自体が、教育課程・指導計画が有効にそして豊かに展開されている証拠となるだろう。

科学的思考力涵養を図るという観点からは、幼児期から児童期に向けての発達や学びの連続性が捉えられている。特に、小学校1年生の生活科をはじめとした各教科との関連性が考慮されていることが、評価要素のカテゴリー設定に現れている。「発見と問題解決（①好奇心・試行錯誤 ②論理的に理由付けされた行動）」、「言葉への関心（①話すこと・聞くこと ②書くこと）」、「数量と図形（平面・立体・空間）（①数理的な見方や考え方や表現 ②数えること・まとまりで把握すること（分離量や連続量）③図形（平面・立体・空間）④パターンと組み合わせ）」、「協同的感性（①協同的な言葉や表現 ②人間を理解し関係を調整する力（21項目）」は、STEAMIC教育も包括しており、幼稚園教育要領にある「遊びを通しての総合的な指導」でもある。子どもの遊びや姿からその中にある教育的価値を見だし言語化・可視化することは、幼稚園教育を進めていく上で必要とされている。小学校との連携・接続の柱として共通理解のためにも活用している。

【改善を要する点】

評価項目や内容についての妥当性を確認することができたが、幼小連携の科学的思考力涵養プログラムにおいて、引き続き小学校との合同保育／授業等を実施し、今年度は附属小学校福井教諭に登壇いただいた。学習指導要領も改定され、互いの教育のつながりがさらに密になってきているがその理解は非常に難しい。まずは、合

同保育授業を実施だけで終わることのないよう「ねらい」や「めあて」を児童幼児の姿に合わせた計画のもと、柔軟に合同保育／授業を進めていくようにしなければならない。そのためにも幼稚園側が幼小接続に対する理解をし、小学校側に説得力をもって伝えられる実践と力量が必要になる。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

自己評価の基準

- A 十分達成されている
 - B 達成されている
 - C 取り組まれているが、成果が十分でない
 - D 取組が不十分である
- ※評価項目ごとの自己評価の基準は、以下同じ

評価項目 2 保健安全管理

(1) 観点ごとの分析

観点 2-1 保健計画の作成・実施の状況、園の環境衛生の管理状況

【観点到係る状況】

月別指導計画については、今年度も指導計画を毎月見直し、幼児の実態に応じた健康診断の工夫や、時期に合わせた食育や疾病の予防、心身の健康などについての計画を立て、それに沿って保健管理や保健指導を実施した。

健康診断に関しては、健康診断後に結果を通知し、また夏休み前に個人毎に健康診断結果一覧表を配付し、治療勧告のある幼児には再度医療機関への受診をお願いした。

食育に関しては、今年度幼稚園が改築のため仮園舎での生活を送っている。おやつのお部屋としてのスペースが確保できなかったため、各保育室でクラス一斉におやつ時間を設けている。また、食物アレルギーに関しては、個々の症状に合わせた対応を行っている。食物アレルギーのある幼児については、4月当初に保護者と個別面談を実施し、学校生活管理指導表を提出してもらい、それをもとに職員に説明し共通理解を図っている。また、職員研修を実施することにより職員の知識・技術の向上に努めた。玄関の表示や職員の朝の打ち合わせ時間を活用し、おやつについて日々共通理解を図っている。おやつの内容に関しては、基本的にアレルギー対応に必要な幼児も同じものを食べられるように工夫して選定している。また、園では仮園舎生活の中でもプランター等を活用し各クラスが野菜などを栽培している。職員室や各保育室で調理できるスペースを確保したり、保護者ボランティアに協力したりしてもらいながら、手作りおやつも提供した。いちごジャムやゆでそら豆・枝豆、野菜炒め、新米・ささげおにぎり、煮芋など、自分たちで栽培した旬の野菜を味わうことができるようにした。

疾病の予防や心身の健康については、ほけんだよりを活用し、幼児向けと保護者向けに情報発信を行った。時期に応じた感染症に関する情報や、保健室の利用状況、健康や食育に関する情報を毎月のほけんだよりに掲載した。それに加えて、徳島市養護部会で共同作成した睡眠に特化したほけんだよりも年4回発行し、幼児期からの睡眠の大切さについて周知した。また幼児に対しては、各クラスの降園前の時間を利用し、発達段階に応じた保

健指導を行った。虫歯と歯磨きについての絵本や目の健康についての絵本を活用し実施した。また、保護者からの健康相談に個別に応じ、園と家庭の共通理解を深めている。

園の環境衛生については、学校薬剤師による指導や定期的な検査により、細菌・水質等園内の環境安全管理に努めている。また、砂場や遊具など園児が直接触れるものについては、消毒をするなどの配慮をしている。感染症対策として、年間を通して、徳島県感染症情報センターからの最新の情報や周囲の学校の状況を把握し、職員に周知して予防に努めている。手洗い方法も園舎内へウイルスが入らないように、園舎外で必ず石けんによる手洗いと手指消毒を行うように徹底している。

【分析結果と根拠理由】

年度当初に昨年度の反省をもとに保健室経営計画を立て、健康診断の実施や疾病予防の取り組みを行っている。それに加えて月別指導計画を作成することで指導内容の充実を図っている。また、緊急を要する対応が必要な場合には、状況に応じて計画を改定していくことが大切であると考えている。

【資料】 保健室2月の指導計画

【幼児の姿】

- ・気温の急な変化により、熱が出たり咳をしたりしている幼児もみられる。
- ・手袋やマフラー、コートなどを身につけて、暖かくしている。
- ・うがいや手洗いなどが、水が冷たいので十分でない幼児がいる。
- ・園の生活に慣れ、自己中心的だった幼児たちが、友達と一緒に行動することが常になってきた。友達の話をよく聞き相手の気持ちを汲める幼児もいる。

【ねらい】

- ・感染症の予防（手洗い・手指消毒）をしようとする。
- ・寒さに負けず戸外でしっかり運動をしようとする。
- ・規則正しい生活をしようとする。

指導内容	指導の要点と環境構成の留意点
○感染症の予防（手洗い・手指消毒）をしようとする。	○感染症の予防には、丁寧に石けんで手を洗うことや、手指消毒が大切であることを知らせ、水が冷たくても進んで実行できるように促す。 ・トイレの後、おやつの前、外から帰った後、お弁当の前は、必ず手洗い・手指消毒をするよう声をかける。
○規則正しい生活をする。	○早寝・早起きや、バランスの良い食事などが実行できるよう保護者にも伝える。 ・行事にあわせて病気の予防を呼びかけ、たとえば豆まきでは「かぜもそと」と、病気に負けない気持ちを育てる。
○寒さに負けず戸外で元気に遊ぶ。	○一輪車やサッカー・ドッジボール・竹馬・縄跳び・ホッピングなどで身体を思い切り動かし、戸外で元気に遊ぶように促す。

<p>○体調や温度・気候に合わせて、衣服の着脱ができたり防寒着の調節ができたりする。</p>	<p>・寒くなると身体がかたくなり、けがをしやすいため、十分に準備運動をするなどし、けがの予防をする。</p> <p>○衣服の着脱や防寒着による調節の大切さを伝える。</p> <p>・遊んだ後で汗をかいた衣服の着替えができるように促す。</p> <p>・天候や気候に合わせて、手袋や防寒着の着脱ができるように促す。</p>
<p>○心の問題や悩みを上手に解決しようとする。</p>	<p>○友達とけんかしたり、遊びがうまくいかなかったりして来室した幼児に対して、幼児の話をよく聞き、その子の思いをしっかり受け止めながら、自分のやりたいことに向かっていけるように援助する。なんとなく来室した幼児に対しては、無理にその原因を追究しようとせず、居心地の良い場所となるように、温かく見守り、幼児の状態を見ながら対応し、気分を立て直して遊びに戻っていくように支援をする。</p>
<p>(保護者への対応) *保護者との健康相談の場を設ける。</p>	<p>*子どもたちの身体や心の健康について、また、子育て全般について、健康相談の場を設けるとともに、必要に応じて専門機関への連絡を取るなど、保護者のニーズにあった支援を行う。</p>

別添資料 1-② 令和7年度幼稚園評価アンケート結果報告書
別添資料 2-① ほけんだより 2月号

観点2-2 危機管理対策の見直しと強化

【観点に係る状況】

「令和7年度安全管理計画－危機管理マニュアル－」(別添資料2-②)を昨年度の反省と仮園舎での生活を考慮し見直した上で作成し、それに基づき計画的に安全管理を実施している。また、毎月20日の学校安全の日には、教職員が複数体制で園内の安全点検を実施し、危険箇所などは速やかに修理・修繕をするなどの即時に対応をしている。また、8月には赤十字幼児安全法の講習会を実施し、救急処置の最新の方法について知識を得て実技講習を行った。

【資料】 防災・避難訓練の実施

<p>①幼小合同防災訓練(地震・津波想定避難訓練)計画</p>	
<p>○ねらい</p>	<p>・実際に地震や津波が起こった時、保育者の指示にしたがって全員が避難できるような安全な避難の仕方を身に付ける。</p> <p>・地震や津波の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。</p>
<p>○期 日</p>	<p>令和7年5月7日(火) 10:50~11:30</p>
<p>②避難訓練(不審者対応)計画</p>	
<p>○ねらい</p>	<p>・実際に保育中不審者が侵入してきた場合、保育者の指示に従って速やかに行動できるよう、安全な避難の仕方を身に付ける。</p>

○期 日 令和7年5月23日（金） 10:50～11:05

○状況設定 ・幼稚園の敷地内への不審者の侵入を許した場合を想定。
・不審者が小学校南門から運動場に侵入してきたと想定。

③防災訓練（地震・火災）計画

○ねらい ・実際に地震や火災が起こった時、保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。
・地震や火災の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。

○期 日 令和7年9月1日（月） 9:40～10:00

④避難訓練（洪水・高潮）計画

○ねらい ・実際に洪水や高潮が起こった時、保育者の指示にしたがって全員が避難できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。
・洪水や高潮の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。

○期 日 令和7年10月1日（水） 9:40～10:00

⑤避難訓練（地震）計画

○ねらい ・実際に地震や津波が起こった時、保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。
・地震の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。

○期 日 令和8年1月15日（木） 9:40～10:00

【分析結果と根拠理由】

危機管理マニュアルについて、年度当初に職員会で周知して、避難訓練の際さらに詳しく確認するよう努めた。また、今年度実施後、問題点や課題を考察し、次年度からの危機管理マニュアルに反映できるようにする。

別添資料 2-② 令和7年度安全管理計画－危機管理マニュアルー

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

指導計画に基づいて保健指導を実施し、幼児の実態を観察することで月の指導計画を見直し、全職員で園の保健指導体制やその内容について協議するなど、適宜よりよくなるよう改定している。幼児の健康や安全に関する情報を毎月提供する「ほけんだより」も幼児が保護者と一緒に読め、健康教育につながるような文字とカットで構成し、健康について考えてもらえるように工夫した。健康の概念をまだ持っていない幼児に対して、元気で登園するための正しい生活習慣がしっかりと身に付くように考えた。

危機管理対策の見直しと強化については、危機管理マニュアル（安全管理計画）に基づき、毎日、毎月の安全点検や防災・避難訓練を実施することにより、事故の防止に努めるとともに、幼児に対して安全な避難の仕方を身に付けさせたり、生命や身体を守ることの大切さを知らせたりしている。今年度は仮園舎での生活となり、避難経路や避難方法など、これまでとは違う実施方法になったものもあった。防災訓練を行う際には、年度初めの訓練以外は、事前に子どもたちに知らせずに実施している。幼児は、どの子

も遊んでいた場所の近くの保育者の側に集合し、保育者の指示に従い、速やかに避難することができた。避難訓練を重ねることにより、幼児は自分たちが遊んでいたところに大人がいなかった場合も、自分たちで考えて近くにいる教員の元に逃げたり状況に応じて指示を待つことができていた。また、10月には日本赤十字社徳島県支部より幼児向け防災教材をいただいた。年長児には出前授業に来ていただき、教材を通して学びを深めることができた。

また教職員向けにも、日本赤十字社徳島支部より講師を招き、幼稚園で安全講習会を実施した。救急処置において幼児に対応した実技講習による技術習得のみならず、食物アレルギーについての最新の知識とアナフィラキシーショックが起きたときの対応も知ることができた。実施することで、安全対応の能力の向上に役立っている。

また、交通安全の面では、今年度も徳島市が主催する交通安全教室を実施し、幼児に道路を通行する上でのルールを守ることの大切さを伝えている。また、日々の登降園時には保護者会による立哨もあり、幼児の安全を守るとともに日常から交通安全に取り組んでいる。

【改善を要する点】

防災訓練に関して、状況や取るべき行動がパターン化している現状がある。アクシデント要素を組み込むなどシナリオを多様化させ、臨機応変な対応ができるような訓練の工夫が必要である。また、実際の災害時には連絡手段やお迎えの道が絶たれてしまうことも考えられる。外部機関との連携や保護者への引き渡し訓練、避難場所での過ごし方を考えるなど、実際の災害を想定した訓練となるよう、改善が必要だと考える。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

評価項目3 組織運営

(1) 観点ごとの分析

観点3-1 園務分掌や主任制度が適切に機能するなど、園の明確な運営・責任体制の整備の状況

【観点到係る状況】

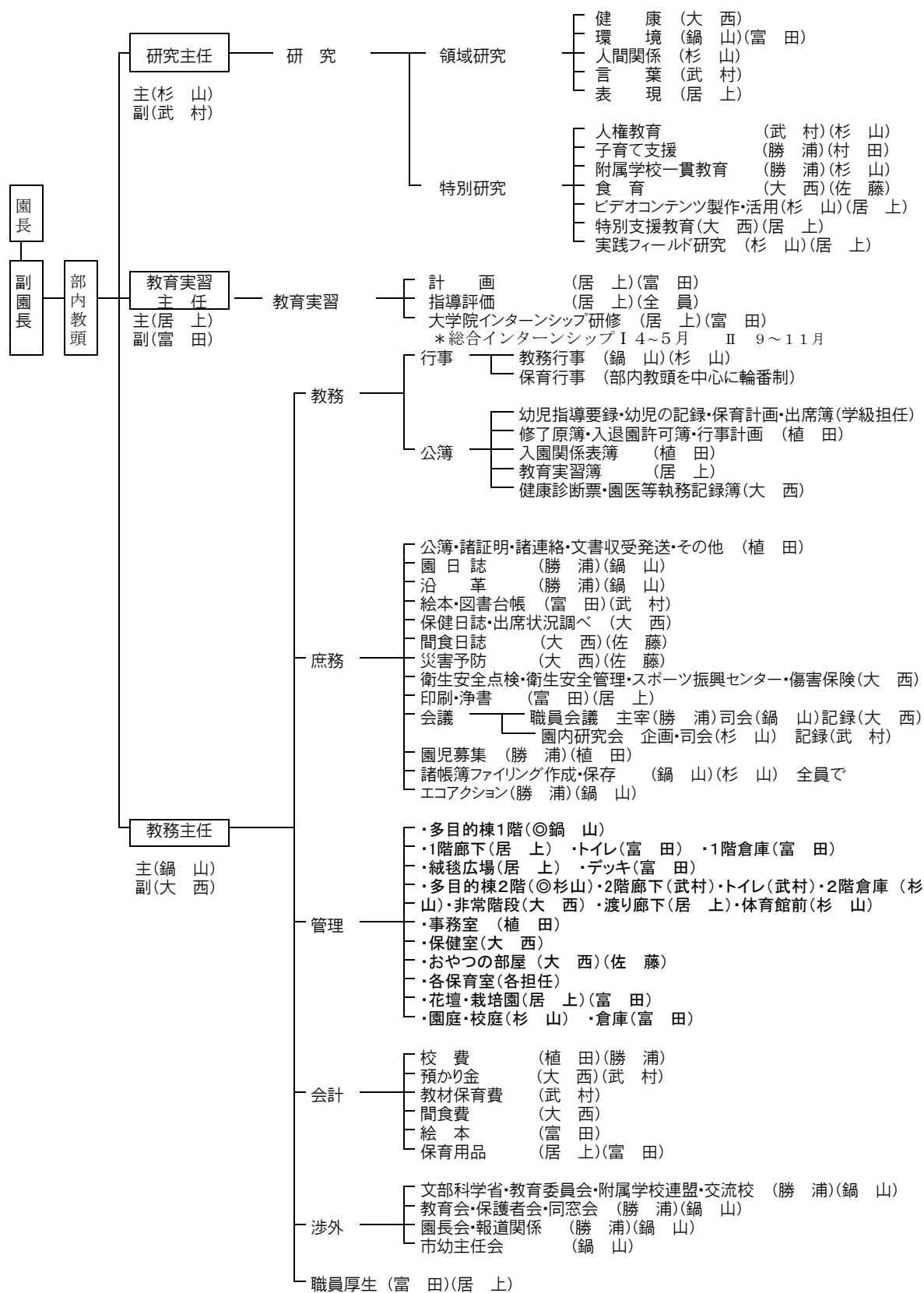
本園は、研究部・教育実習部・教務部の3部に編成した運営体制を組織している。3主任を責任者として配置して、それを園長・部内教頭が統括するという園務分掌を定めている。これは、専任教頭が廃止された平成26年度より行っており、学級も担任する部内教頭の負担軽減とともに、各主任のリーダーシップが発揮されやすいような改善策となっており、少人数でありながら職員が互いに協力して園務の能率化・省力化が図れている。また、各種行事における責任者についても分担制（リーダー・副リーダー）とし、全教職員が主体的に園経営に参画できるよう構成の工夫に努めてきた。さらに、令和5年度に新型コロナウイルスが感染症法上5類に移行されたことをきっかけとして検討を重ねてきた行事のもち方についても、話し合いの機会の充実を図り、意見を交わし合うことで再検討を加えながら進めていった。園運営に関する事項については、毎月の

定例職員会議で、担当責任者が議題や報告をあげ、全職員で協議し共通理解を図ったうえで対応し、必ず次年度に向けた反省を欠かさないようにしてきた。その他においても必要に応じ、協議する機会をとってきた。

【資料】 令和7年度第1回職員会議題

令和7年度 第1回 職員 会議		鳴門教育大学附属幼稚園
と き	令和7年4月1日(火)	13:15～
と ころ	附属幼稚園 遊戯室	
議 事	園 長 あいさつ 転入者 あいさつ	
1 協議事項 (担当者)		
(1) 令和7年度人事異動について	資料1	(園 長)
(2) 令和7年度 教頭・主任発令・学級担任及び領域研究について	資料1	(園 長)
(3) 令和7年度 職員の勤務について	資料1	(園 長)
(4) 令和7年度 園経営方針について	資料2	(園 長)
(5) 令和7年度 園務分掌について	資料3	(園 長)
(6) 令和7年度年間行事予定・4月行事予定・春休み中の勤務について	資料4	(鍋 山)
(7) 新学期諸準備について	資料5	(鍋 山)
(8) 新入園児用品渡しについて	資料6	(居 上)
(9) 着任式・前期始業式について	資料7	(鍋 山)
(10) 入園式について	資料8	(鍋 山)
(11) 附属幼稚園職員連絡網・教職員名簿について	資料9	(鍋 山)
(12) 園児緊急連絡網 等について (スクリーン及びHPで周知・連絡)		(鍋 山)
(13) 芙蓉会規約について	資料10	(植 田)
(14) 令和7年度 幼稚園要覧について	資料11	(鍋 山)
(15) 四附連(愛媛)について	資料12	(園 長)
2 連絡事項		
(1) 文書整理・情報管理等について (園 長)		
(2) 経費節減について (園 長)		
(3) 四附連(高知)参加等について	資料13・14	(杉 山)
3 その他		
(1) 労働環境協議会役員改選について 居上教諭		(園 長)
(2) ハラスメント相談委員改選について 勝浦		(園 長)
(3) 衛生推進者(本学安全衛生管理規程第7条)の改選について 鍋山教頭		(園 長)

【資料】 令和7年度 園務分掌



* 動物の家 中瀬・5歳組担任を中心に

* 誕生リボンと表示 佐藤・川人・中瀬

【分析結果と根拠理由】

上記資料のような組織で園務を分掌し、幼稚園運営を行っている。少人数で多岐にわたる業務を分担しているため、個々への負担は大きいですが、各々が責任をもって園運営にあたることにつながっている。常勤職員の病休などの欠勤にも柔軟に流動的に対応できしており、それぞれの力量が向上していることがうかがえる。

観点3-2 教員のキャリアステージに応じた資質・能力の向上

【観点に係る状況】

平成29年度に徳島県教育委員会が策定した「幼稚園教諭等 教員育成指標モデル」を参考にしながら、保育者のキャリアステージに応じた資質・能力の向上に取り組んでいる。園長をリーダーに、互いに連携しながら先輩職員の動きや配慮などについて保育の中で学び、自分の保育の在り方について振り返りながらステップアップにつなげている。また、フレッシュ保育者が保育や業務状況に迷ったときには、各職員がそれぞれの立場で相談にのったり今後の方針などについて共に考えたりしながら、手を携えて進めていく体制をとっている。様々なキャリアの保育者がいる中で、それぞれに課題や進めるべき仕事内容に向かいながら、互いにフォローし合える職員集団を目指している。

【分析結果と根拠理由】

毎朝の職員朝礼では、前日までの幼児の姿やその日の保育の要点、各場所での様子などを全体で共有し、仮園舎での安全かつ充実した保育の推進に努めている。これまでの園舎と違う状況の中で、幼児の行動を予測し安全策や遊びの環境の改善を日々すすめている。事故やけがなどがあった場合には、すぐに改善策を講じ対応している。毎日の清掃や修繕などには、慣れない場所で年度初めは少し戸惑い、時間をとられることもあったが、次第に職員間の連携がはかられるようになり効率的な分担がすすめられ、最終的には業務時間の短縮につながっていった。

仮園舎での生活となり、これまでと大きく異なった点に、1学年2学級が同じ空間で生活することになったところがある。保育のフォローをしあえることが利点の一つであると思われたが、フレッシュ保育者にとっては慣れない場所で慣れない保育形態でといった様々なことが徐々に負担感につながっていったようである。園長や主任など各職員が保育補助に入ったり相談にのったりしながら、全職員がやりがいと充実感をもって仕事ができる環境作りに努めた。柔軟に生活環境を幼児に合わせて整えていき、仮園舎での暮らしやすさを工夫と知恵を使い構築していった。また、小学校と施設使用状況などの調整をする中で、次第に連携がスムーズに図れるようになってきたことから、幼児教育推進に対する理解が深まってきていることがうかがえる。幼小の教職員間での交流も仮園舎での生活の中で自然と培われ、幼小連携が充実していくことにつながった。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

キャリアステージに応じた資質・能力の向上を年々すすめてきたことで、組織運営に好影響をもたらしている。報告・連絡・相談の徹底が職員全体に周知されるとともに、行事などの準備がより具体的に計画に入れ込まれ、各職員が責任をもって自分の担当する仕事の運営を行うことが意識化されてきた。これまで積み上げられてきた行事計画案を元に、仮園舎の生活に即した行事計画を考えることで、各自がより保育をイメージする力や幼児の実態に合った保育を考える力の構築にもつながった。

仮園舎の生活の中で、時間や費用がどうしても必要になってくる場面が出てくるが、職員数が限られる中でも効率の良い業務推進に努め、超過勤務時間の短縮が可能になってきたことは、職員各自の努力の成果であると言える。

また、令和4年度より導入された幼稚園と保護者をつなぐデジタル連絡ツール（スクリレ）を通して、保護者へ伝達事項等の連絡がスムーズになったことやICTの有効活用が進んだことは、引き続き業務の軽減につながっている。仮園舎では、これまで毎週各学級で行っていた講話の時間（保護者に対して保育について説明する機会）がとれなくなっていたが、こちらもスクリレを活用しつつ補うなど工夫を重ねている。

職員が行っていた施設や遊具の修繕・塗装、また仮園舎への引っ越しに伴うプランターなどの移動や砂場の整備などについては、今年度は保護者会に協力を依頼し連携してすすめることができた。このことは「働き方改革」の実践になるとともに、保護者の幼児理解や園教育への理解にもつながっている。

【改善を要する点】

仕事の共同作業化と工具等の購入等の改善を随時行うなど、職員の負担軽減のための方略を工夫しているが、今後とも業務や組織構成の見直しを継続して行う必要があると考える。仮園舎への引っ越し時に得た経験を生かし、新園舎への引っ越しに向けた計画的な準備や分担分けなどをすすめていきたい。職員間で協力しつつ、一人一人がより自覚と責任をもって保育や業務を遂行していけるような職員体制の構築を目指したい。

そのために、幼稚園等教諭教員育成指標モデルを活用しながら、それぞれのキャリアステージに応じた自身の行動の振り返りや仕事への責任感や立場に対する自覚をもちながら、よりよい保育実践や円滑な組織の運営につなげていきたい。

（3）評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

評価項目4 研究と研修

（1）観点ごとの分析

観点4-1 幼児教育研究と園内外における研修の実施

【観点到係る状況】

①園内研究会・合同研究会・研究保育の公開

本園では、一昨年度は「遊誘財から保育者の専門性を問う～子どもと創る保育のために～」のテーマで、そして昨年度は、保育者の専門性をいかにして向上していくのか、を明らかにしていただくために「遊誘財研究をいかした保育者の専門性向上への取り組みー子どもの主体的・創造的な生活を支える保育者の在り方ー」とテーマを設定し、研究を進めてきた。事例の中に「保育者の思考と遊誘財が遊びを誘発するプロセス」のフォーマットを作り、本園の保育の考え方である「子どもと創る保育」を改めて振り返りながら記述することで、保育者の思考に視点を置き、これまで見えにくかった保育者の保育を見る視点・読みとりや意図について抽出することができた。今年度は、昨年度までの研究を継続しつつ、保育者の具体的な思考の過程やその根拠などを明らかにしていくために、「遊誘財研究をいかした保育者の専門性向上への取り組みⅡー子どもの主体的・創造的な生活を支える保育者の思考過程ー」と研究テーマを設定した。

今年度も本学幼児教育コースと協力して研究を進め、園内研究会・合同研究会を行っ

た。オンライン会議システム（Zoom）を併用した。また、園舎改築に伴い、研究保育の公開や幼児教育研究会を実施しないことになったため、合同研究会を幼児教育関係者の方に向けオンラインで公開した。全6回中5回を公開した。延べ104人の参加者を得ることができた。このとき、本学幼児教育コースの教員による専門的な観点からの講演も実施した。合同研究会で出す事例では、生活の中に保育者自身がいることを自覚しながら、そして子どもを信じ、生活を積み重ねていくプロセスを、その時の言葉で記していくことができた。保育者が日々の保育の中で悩んだり困ったりすることをそのまま語ることに土台となった。保育者から出てくる言葉も、子どもに近いものになっている。本園の保育者の思考過程を、参会者にも知ってもらい、意見をもらうことができた。

担任保育者の研究保育も実施したが、園舎改築に伴い、幼児教育関係者への公開は行わなかった。来年度は、仮園舎での生活を公開する方向で計画を進めていきたい。

②幼児教育研究会

今年度は、園舎改築に伴い、実施しなかった。

参観者からのアンケートでは運営、内容ともに高く評価されている。今後も、本園の保育研究を全国へ向けて発信していきたいと考えている。来年度以降は、新園舎の施設公開や、保育の公開、研究内容の発信方法についてさらに工夫していきたい。

以上のことから、幼児教育関係者への研修支援が適切にできていると考える。

別添資料1-③ 生活プラン（2014.8.1発行）

別添資料4-① 令和7年度参観者 アンケートグラフ・まとめ

別添資料4-② 令和7年度 合同研究会(事例検討会) アンケートグラフ・まとめ

③園外の研修会等への参加

- ・文科省等主催の研修（WEB） 幼稚園担当指導主事・担当者会議（WEB）
- ・県・市教委主催の県・市国公立幼稚園こども園長会、全国国立大学附属学校連盟副校長会研究会、全国国立大学附属学校PTA連合会PTA研修会、国・県幼稚園教育課程研究協議会、全国附属学校連盟幼稚園部会奈良大会、全国幼児教育研究大会第73回滋賀大会、第76回日本連合教育会研究大会茨城大会、全国国立大学附属学校連盟養護教諭部会、養護教諭研修会、学校保健安全研究協議会 等
- ・市幼稚園教育研究協議会、全幼研徳島支部、教育会主催の研修会 等

以上のとおり、数多くの研究会・研修会に園務に支障のない限りできるだけ積極的に参加し、そこで研究発表や話題提供なども行っている。

観点4-2 教育委員会並びに幼児教育関係者への研修支援等の状況

【観点に係る状況】

本園は研究幼稚園・奉仕幼稚園としての使命をもっている。今年度の具体的な研修支援、教員派遣、公開保育の提供としては、次のとおりである。

・令和7年度徳島県保育・幼児教育アドバイザー、令和7年度徳島県幼稚園等新規採用教諭研修運営協議会委員、公益社団法人全国幼児教育研究協会徳島支部支部長、青少年赤十字徳島県指導者協議会副会長を園長が務めた。

- ・県・市教委主催の研修会への講師派遣（幼稚園等マネジメント研修）
- ・県幼稚園等新規採用教員研修・幼稚園長等運営管理協議会における指導
- ・阿波市保育事業協議会保育・教育内容（4、5歳児）研修会講師
- ・県内外研修会への講演講師の派遣

- ・幼稚園参観・研修（全幼研徳島支部会員、上越教育大学附属幼稚園、奈良教育大学附属認定こども園、静岡市立清水こども園、京都教育大学古賀松香教授ゼミ生、国立教育政策研究所幼児教育研究センター横山真貴子先生・掘越紀香先生）

別添資料 4-③ 委嘱・委員等一覧（勝浦）

別添資料 4-④ 参加研修一覧（鍋山、杉山、大西、居上、武村、村田、佐藤、川人、中瀬）

別添資料 4-① 令和7年度参観者 アンケートグラフ・まとめ

観点 4-3 地域住民への貢献

【観点到係る状況】

本園は奉仕幼稚園としての使命をもち、専門性を発揮し、次のような地域貢献を果たしている。

- ・オープンスクールの実施。
- ・とくしままちなか花ロードProjectに参加し、徳島の中心市街地の緑地化を進めるべく、年3回「西ノ丸橋★子ども美術館」展示に参加。
- ・教育講演会の開催。今年度は、本学大学院学校教育研究科高度学校教育実践専攻（教職系）幼児教育コース教授の田村 隆宏先生を講師に「子どものレジリエンスを高めるために」と題した講演会を令和7年11月3日（月・祝）に実施した。本園保護者に提供するとともに、幼児教育に関心のある一般の方にも公開した。

別添資料 1-① 令和7年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果

【分析結果と根拠理由】

様々な地域のイベントにも機会を捉えて参加するなど、地域との関わりを意識的にもつよう心掛け、附属幼稚園が地域に果たす役割について職員や園児とも共通認識をもつようにしている。また、地域住民の子育て支援についてもオープンスクールや様々な講演会を実施して、積極的に進めている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

研究内容については、これまでの遊誘財研究の成果に加えて幼児教育の今日的課題を見据え、幼児が主体となる保育の在り方について実践事例を元に本学大学教員との合同研究会を行い、オンラインでの公開をすることができた。そこで本園の研究過程や成果、保育内容などについて、園外の教育関係者に提供する機会を設けることができた。また、本学院生からも積極的な参加があり、保育者養成の点からも有益であることが確認できた。

また合同研究会の中で、本学幼児教育コースの教員から専門的な観点からの講演も実施した。これは附属園の利点であり、教員の指導力・資質向上につながっている。幼児教育現場の最新の情報を得ることもでき、広い視野で保育者の専門性について考えることができることが優れた点である。

地域住民に対しては、園児や保護者が近隣の環境保護に関心をもつきっかけとなるよう積極的に地域団体の実施する活動にも参加するようにしている。また幼稚園教育についての専門的見識や実践事例、先端的な情報を広める地域の子育て支援や幼児教育振興に寄与する役割も意欲的に果たしている。

【改善を要する点】

今年度は、公開保育や幼児教育研究会を実施しなかった。来年度、新園舎へ移動するまでの間、仮園舎での保育実践について公開をし、参観者からの意見を得られるよう計画を改善したい。

全国附属校園が集う研究会や県主催の研究会等は、他所属の教員との交流や意見交換ができ、自らの実践を見直したり、新たな刺激を受けたりでき、教員の教育研究の意欲向上に役立った。昨年度から対面形式も多く復活したが、リモート形式の利点もある。研修の機会の充実に向けて幅広く情報を集めるとともに、職員への情報提供も続けていくようにする。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

評価項目5 教育環境整備

(1) 観点ごとの分析

観点5-1 設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のための整備の状況

【観点に係る状況】

施設・設備の充実整備の状況

○幼稚園園舎改築

これまで、幼稚園の改築予算を大学に要望し設置者（大学）も文部科学省に予算要求を行ってきた。令和7年1月に予算が承認され、令和8年度11月の新園舎完成に向けて幼稚園改築がスタートした。

【分析結果と根拠理由】

仮園舎においても安全点検は複数体制をとるなどして、よく機能している。施設・設備の不備については、すぐに設置者との連携をとるようにし、教育環境を常に美しく整備している。

環境を通して行うことが基本の幼稚園教育では、施設・設備・遊具・用具等の整備を常に意識し、幼児が生活しやすいよりよい教育環境づくりに徹している。また、点検のシステムを確立させることで、職員の安全に対する意識を高め、潜在事故の危険性や修理・修繕を必要とする箇所を確実に見つけ出し、寄附金の活用も含め附属学校係や大学施設課による迅速な対応がなされた。幼児にとってふさわしい教育環境の構成や環境整備を怠らないようにし、引き続き幼児の安全を最優先に点検や整備を続けていく。

別添資料 1-① 令和7年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果

観点5-2 みどり会（保護者会）との連携

【観点に係る状況】

教育環境の整備・充実には、本園のみどり会（保護者会）との連携が不可欠である。今年度は、園舎改築に係る仮園舎での教育活動にともない、みどり会の活動もそれに合わせ、ボランティア活動の在り方や内容をボランティア活動により環境整備のみならず、教育環境の充実にも大きく関わっている。

環境整備においては、みどり会（保護者会）と連携し実施した。園舎周辺の草抜き、暗渠の砂取り、保育室等の窓掃除、木々の剪定など環境の整備を行った。また、毎週水曜日の星組降園前には、園庭の草抜きを中心に保護者のボランティアで環境の整備を行っている。

教育環境の充実においては、保護者も園に入って活動することで子どもと関わる楽しさや意味、自分のもっている力を活かせる喜びを感じることを子育て支援としている。今年度は、仮園舎ということで活動ができないボランティアもあったが、手づくりおやつ、人形劇講演、研修への参加、駐車場のスムーズな運営、おんがくと友達、今年度から立ち上がった朝の立哨など、園の状況に合わせた柔軟な活動内容が展開され、教育環境の質に与える影響は非常に大きい。

【分析結果と根拠理由】

環境整備後、自分たちが生活する園の環境を、職員や子どもたち自身が改めて見直す意識が高まり、より良い環境を作っていくことができている。また、保護者の方たちの積極的に環境整備に関わり整えてくださった場所で、心地よく存分に遊んでいる幼児の姿が見られた。物を大事に扱っている姿もあり、園を大事にしていこうとする意識にもつながっている。

教育環境の充実に係るボランティアについては、保育の中に入ることや子どもたちにとってモデルになるような内容となっている。参加した保護者の声にもそれらが表れている（別添資料1 - ②令和7年度幼稚園評価アンケート結果報告書）。

今後も、保護者会と連携をしながら、より良い園環境作りを手がけていきたい。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

園の改築は全国立附属幼稚園で第1号となるため、全国からの関心は非常に高い。

みどり会との連携は、今後も充実に向けていく。園の教育を理解していく過程もその中には大きな影響を与えるがよい方向に進んでいる。別添資料1 - ②令和7年度幼稚園評価アンケート結果報告書においても、みどり会の活動には高評価が得られている。

【改善を要する点】

仮園舎は、小学校の仕様なので、幼稚園の生活や子どもの成長発達に合っていない場所や設備も多い、何らかの改善ができることはすべてチェックし改善をしていった。子どもたちで順応・改善できることも多く、さらに、子どもとともに環境を創りあげていく。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

評価項目6 教育実習・インターンシップ等

(1) 観点ごとの分析

観点6 専門性や実践力を養う教育実習の実施状況

【観点到る状況】

今年度の教育実習の実施状況は、次のとおりである。

①ふれあい実習 9月9日

学部1年生4名

目的：教育実習実践現場の様子を観察することにより、教職及び幼児理解を深める。

幼児、児童・生徒とのふれあいを通して、体験的に子どもの姿を学びとり、子ども理解を深める。教職への意欲を高めるとともに、教職に向けての自己課題を明確にする。

②附属学校園観察実習 5月21日・22日

学部3年生5名

目的：附属幼稚園での保育参加を通して保育者の幼児への配慮や環境整備や関わり方を探る。幼児への関わり方を観察・体験したり、附属幼稚園教員の1日の過ごし方の様子を受け止めたりすることにより、教員としての力量形成について自己課題の明確化を図る。

③附属学校園実習オリエンテーション 7月2日

学部3年生5名

④附属学校園実習 9月1日～9月26日

学部3年生5名

目的：学習指導、幼児、生徒指導、学級経営など、教育活動全般にわたっての実習体験を積み重ねることにより、教育的人間力、協働力、生徒指導力などについての自己課題を明確にし、教育活動全般にわたって基本的な指導技術を習得し、実習体験を積み重ねることにより、「教育観」「指導観」「責任感」等を培い、教員としての力量を高めることを目的としている。

⑤基礎インターンシップ 11月18日～11月25日のうち5日間

大学院幼児教育コース1年生1名

目的：子どもとの信頼関係を築き、保育実践力の育成を目指す。

⑥総合インターンシップⅠ・Ⅱ 4月～5月のうち60時間

大学院学校教育研究科高度学校教育実践専攻1名

目的：新年度当初の幼稚園におけるフィールドワークやアドバイザー教員の取組を通じて、新入園児や進級児と信頼関係を築くためのカウンセリングマインドの習熟や学級経営能力の育成を目指す。また、園の一員として組織的に行動する力量の獲得を図る。幼稚園で配属された学級におけるチーム・ティーチングとしての役割を中心として、アドバイザー教員から指示される様々な園務等も積極的にを行い、保育実践力における状況対応力、人間観・保育観の確立を目指す。

⑦幼児教育実践フィールド研究Ⅱ

大学院幼児教育コース（遠隔教育プログラム）1名

目的：幼稚園において特に運動会や園外保育などの行事に参加観察を行い、記録やディスカッション等のフィールドワークをとおして、子どもの遊びについて、管理職、ミドル、若手保育者など様々な立場から検討を行い、行事等について客観的に考察する自身の力を深化させる。

カリキュラム・マネジメント力を促す実習の工夫については、毎日、担任指導教員に教育実習録・保育案を提出するようにしている。週明けに一度、先週一週間の観察記録・週の指導記録・幼児の記録を提出する。提出に関しては、令和3年度から、ペーパーレス化・ICT化を図るため、学習管理システム（Teams）を使用していたが、今年度も大学と共有している実習用ファイルを附属幼稚園で作成した学習管理システム（Teams）でも共有できるようにした。そうすることで作業効率の向上につながった。

当初は、指導計画立案に長時間を要していたが、少しずつ観点を押さえて整合性のある保育案を作成できるようになった。保育後は、その日の幼児の生活ぶりを記録し、保育を振り返るミーティングを深めた。遊びの中の教育的価値・活動内容や経過・先の発展見通し・環境構成・時間の配分・幼児の発達の実情・内面理解・友達関係・教育課程や月別指導計画との関連・ねらいや内容の妥当性など、自らの言動を振り返りながら、子どもの姿を通して、保育の基本姿勢や考え方を学んでいった。

【資料】 附属学校園実習 実地教育計画表

(○全体 ●学級・学年)

週	月/日	曜	行 事	実習内容	指 導 要 項	時 間	備 考
1	9月1日	月	午後保育日 教育実習開始 対面式 避難訓練	観察参加	○講話①：教育実習の意義（居上） ●9月の指導計画について ●第1週保育内容について	15:15～ 15:45～	・諸書類提出
	2日	火	第7回職員会議	保育(一部) 保育参加	○講話②：本園の人権教育について（居上） ●領域研究・環境	15:45～ 16:15～	
	3日	水	午後保育日 身体測定（4歳児）	保育(一部) 保育参加	○講話③：本園の教育課程・指導計画・日案、 幼児理解と幼児指導について（杉山） ○講話④：学級経営・学級事務（鍋山） ●領域研究・言葉	15:15～ 15:45～	
	4日	木	模範保育(月組)	観察参加	○模範保育説明・協議 ●領域研究・人間関係	13:30～ 15:30～	
	5日	金	午後保育日 みどり会理事会 身体測定（3歳児）	保育(一部) 保育参加	○講話⑤：家庭との連携について（鍋山） ○講話⑥：はとぼっぼのたいそう・親子ダンスについて（居上） ●第2週保育内容について ●領域研究・健康	15:15～ 15:45～ 16:15～	
	6日	土					
	7日	日					
2	8日	月	午後保育日 視力検査（5歳児）	保育(一日)	○親子ダンス案披露 ●領域研究・表現	15:15～ 16:15～	第1週記録 第2週計画提出
	9日	火	ふれあい実習（1年）	保育(一日)	○講話⑦：行事教育－運動会・園外保育について（杉山）	13:30～	
	10日	水	午後保育日	保育(一日)	○講話⑧：保健・安全指導について（大西） ○安全点検（大西）	15:15～ 15:45～	
	11日	木		保育(一日)	○研究保育者決定・評価保育日程について（居上） ○親子ダンスビデオ撮影	13:15～ 13:45～	
	12日	金	午後保育日 交通安全教室 大学芋畑マラチはがし	保育(一日)	●第3週保育内容・研究保育・評価保育について ○大学芋畑マラチはがし（※終了後、大学で解散）	15:15～ 16:30 出発	
	13日	土					
	14日	日					
3	15日	月	敬老の日				
	16日	火	合同研究会④	保育(一日)	○園外保育準備	15:30～	第2週記録 第3週計画提出

	17日	水	午後保育日 園外保育(芋掘り)	保育(部分) 行事参加	○研究保育指導案作成	15:15～	
	18日	木		保育(一日)	○研究保育指導案作成	13:15～	
	19日	金	午後保育日 交通安全の日	保育(一日)	○研究保育指導案作成(印刷・環境準備) ●第4週保育内容について	15:15～ 16:15～	
	20日	土					
	21日	日					
4	22日	月	午後保育日 実習生研究保育	研究保育	○研究保育反省会 ●評価保育指導案作成(印刷・環境準備)	15:15～	第3週記録 第4週計画提出
	23日	火	秋分の日				
	24日	水	午後保育日 (園外保育予備日) 実習生評価保育	評価保育①	●評価保育反省会 ●評価保育指導案作成(印刷・環境準備)	15:15～	
	25日	木	実習生評価保育	評価保育②	●評価保育反省会	13:30～ 14:30	
	26日	金	午後保育日 主免教育実習終了	保育参加	○教育実習反省会	15:15～ 16:15	
~~~~~							
	10月11日	土	運動会				
	10月12日	日	運動会予備日				

### 【分析結果と根拠理由】

幼稚園における幼児との直接的な関わりの過程を通して、指導教員のもと教職の体験を積み、教員となるための実践上の基礎的な能力や態度を養うことを目的として実施した。

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、実習の内容がコロナ禍以前に戻ったが、実習生が考えた運動会の親子ダンスのYouTube配信など、コロナ禍で効果的だったICTの活用を効果的に活かすことができるようになった。

指導案や保育記録の提出や、実習録の記入は、学習管理システム(Teams)の機能を使用した。実習生が学習管理システム(Teams)にアップロードした内容を、園の教員だけでなく大学の教員もリアルタイムで共有できるようにした。また、保育中にパソコンやタブレットで指導案を確認することは難しいので、担任教員や管理職、実習生分の指導案はプリントアウトし、紙媒体で確認をしたり共有をしたりする方法をとった。

実習生も、意欲的な態度で実習に取り組み、子どもに向き合う姿勢・教材研究・保育後の反省や記録等、積極的に取り組むことができていた。

教職員の指導もより高い実践的能力や研究態度を目指した。子どもとともに生活をするという基本事項についての気づきや課題の明確化をそれぞれに図ることができた実習となった。

また、大学から担当教員が来園し、研究保育、評価保育等、実際の実習を見て指導していただく機会も設けている。大学側からの意見や質問もあったり、激励にもなったりと実習の充実につながっている。

教育実習とは別に、大学の幼児教育コースとの自然プロジェクトのボランティアとして学生が保育参加する中で、より幼児理解の深まりや実践力の向上が図られ、実習にもよい影響が感じられる。

大学院生の基礎インターンシップは令和元年度、総合インターンシップは令和2年度から開始し、毎年課題を改善してきた。特に、担任教員とのカンファレンスの中で、学

級経営の方針や幼児理解、環境構成の意図などについて細かく話し合い、院生自身が保育の意図を明確にしながら、幼児と関わることができるようになってきている。主免実習に近い指導内容を維持できるようになってきた。また、学生も自身の研究テーマに沿った実践事例の収集を行うなど、研究分野においても有益な実習となった。

さらに、保護者アンケートの自由記述には次のような記載があり、保護者からも多くの支持と次年度への課題を得た実習であった。

別添資料 1-② 令和7年度幼稚園評価アンケート結果報告書（一部抜粋・原文のまま）  
－ 教育実習生のお子様への関わりで気付いたことをあげてください －

- にこにこ笑顔で関わっていただき、子どもは「明日までで終わりやっ」等少し寂しそうに話していました。一緒に遊んでいただいていたみたいです。
- 先生方が少ない人数で、保育をしてくださっている中、教育実習生の方々も大きな力になってくれたと思います。子どもたちも実習生の先生に親しみを持っていました。
- 笑顔で本当に優しく丁寧に教育してくださっていると伝わりました。
- 運動会のダンスを親子で一緒に楽しめるように考えてくれて感謝しています。
- 昨今は教職員になることが敬遠されていると耳にすることがありましたが、実習生の方たちは皆明るく、子どもも家に帰ってきて実習生の方の話をよくしていたのでとても楽しませてくれたり、積極的に関わってくれているのだと思いました。ぜひ、将来素敵な教員になっていただきたいです。
- 折り紙で手作りお土産など一人一人に一生懸命向き合い、話をしてくれていたのが親も子も嬉しかったです。
- 幼稚園のことをあまり話さないの、教育実習の皆さんのことを教えてくれませんでした。多分、自分のしている遊びに夢中だったんだと思います。お別れ会の日に泣くことや家で実習生にプレゼントを作ること等、想像していたのですが・・・
- どのように関わっているか知らない。
- あまりいい声を聞かない。
- あまり接していないのでよくわかりません。
- 子どもと一緒にそして子ども目線になって遊んでくださり子どもも教育実習生のことが大好きで、毎日楽しんで幼稚園に通っていました。
- 年齢もよくとても親切にしてくださいありがとうございます。
- 最後の日に一人一人にメッセージをくださって子どもが喜んでいたのを覚えています。ありがとうございました。
- 教育実習が終わった後も行事の手伝いに来ていたり子どもも会えるのを楽しみにしている時がありました。
- 名前を呼んで挨拶して下さりうれしかったです。
- 実習生の方々と楽しく過ごし、お別れの際のプレゼントも喜んでおりました。考えてくださった運動会のダンスは、とてもフレッシュでよかったです。
- 1ヶ月という限られた中での時間で、子どもたちとどう向き合っていくのがベストであるのかを実習生のみなさんはしっかり考え行動していただいたと思います。子どもはとても実習生のみなさんに会うのを楽しみにしていました。
- いつも教育実習生さんが来てくださることを楽しみにしていました。どの先生も子ども達としっかり関わってくださっており、特に月組のときにきてくださった先生が大好きで、今でも先生のお話をしています。
- 大きなお姉さんが遊んでくれている様で本人も楽しそうに通っていた。
- 実習生の方の名前や何をしたか等、よく家で子どもが話してくれました。大学生のお姉さんとの関わりがとても嬉しそうでした。

- 慣れないながらも保護者の前で一生懸命お話されていて、頑張っているのが伝わりました。応援しています。
- 今回は川組に来てくれていたそうですが、山組の子どもたちも一緒に遊んでくれたので楽しかったと言っていました。
- 大学から実習に来てくださる方との関わりはすごく楽しみにしていて良かったと思います。ダンスが上手いお姉さんと一緒にダンスをしたよとか子どもたちの喜ぶ話が聞けたのでそう思いました。
- 中学生や大学生と関わる機会は、子どもにとってあまりないことなので、憧れをもって過ごさせてもらったのではないかなと思います。
- 今年度は実習生の方々の様子はわかりませんが、実習生の方々は一日保育、保護者への降園の話の時間などを見て、とても努力されているなど感じました。実習生の方々の子どもとの関わり、保護者への保育内容の伝達等、普段の先生方の様子から見て学び、吸収しているのだと思いました。
- 実習中に加えて、運動会や園外保育でもお手伝いに来てくださる姿を拝見し、非常にありがたいことだと思いました。
- 子どもと一緒に全力で楽しみ関わろうとしてくれる姿にうれしく思いました。
- 子どもたちは教育実習生という年の近い先生のごことが大好きである。実習期間中は、よく子どもから実習生と遊んだ話を教えてもらった。養成校としての役割は、子どもにとって新たな大人との出会いや先生ではない人の別の価値観をしれる良い機会となっていると思う。
- 短い日数にもかかわらず、一人一人の名前も覚えてくれてすごいと思います。たまにしか迎えに行かない保護者にも挨拶して話もしてくれてとても助かりました。実習の準備もあるのに、子どものことをきちんとみてくれてすごいと思いました。
- 教職員の皆様で今後も実習生をサポート、バックアップしてあげてほしい。
- 実習生が来てくださっている間は帰ってきて、「先生の名前は〇〇先生って言うよ。」「〇〇先生と~して遊んだよ」と楽しそうに話していました。実習期間が終わった後も「また〇〇先生来てくれませんか」と言うのを聞いて、本当に楽しい期間だったのだなと感じました。普段とは違う先生にふれ合ういい機会だと思います。
- 実習生の皆さんは、本当にどの方も子ども達に真摯に向き合ってくれ、関わりを楽しいと思わせてくれたと思います。
- 年中の冬頃に娘が大なわとびにはまり、実習生の方が何度も何度もまわしてくれていました。親の私ではきつとすぐ腕が上がらなくなったと思います。ずっと付き合ってくれたことに感謝します。また、園外でのイベントで偶然合った実習生さんもわざわざ声をかけてくださり、違うクラスの実習生さんだったので顔を覚えていてすごいと思いました。
- 子どもは教育実習の先生とかかわることを毎回とても楽しみにしていました。
- 教育実習生は子ども1人1人を見てくれていてよく声をかけて遊んでいただけていたみたいで、子どもは喜んでいました、ありがとうございました。
- 降園時の先生のあいさつの後に、一人一人にお声をかけてくださり、お話して下さったことが印象に残っています。子供がうれしそうでした。
- みなさん一生懸命で、見ていて応援してあげたくなりました。
- 短い期間の実習であってもきちんと名前を呼んでもらえることがうれしいようです。先生は〇〇がすきなんだって！私の〇〇ほめてくれた！と先生との会話をよく教えてくれました。先生自身の話をきくのがすきなようでした。仲良くなった気がするのかなと思います。
- 教育実習生のみなさまに関しては、家庭の中で話に出てくるので楽しく授業をしていただけていると思います。
- とても親身になって関わってくれたと思います。子供から聞く話から、心から寄り添ってくれていたことを感じます。
- いつも笑顔で子供の言葉をしっかり受け取ろうとしている姿が印象的でした。実習生の存在がいい刺激となっていたと思います。

○教育実習の先生がきてくださることを子供も本当に楽しみにしておりました。鳴門教育大学へ行くときは「先生に会えるかな」とワクワクした様子でした。短い期間でもしっかりと子供と関わってくださり貴重に感じております。

別添資料 1-② 令和7年度幼稚園評価アンケート結果報告書

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### 【優れた点】

学習管理システム（Teams）を使用することで、大学教員との実習内容の共有をより効果的に行うことができた。さらに、記録と計画をICTと紙媒体の効果的な併用により、限られた実習（勤務）時間内で、教員と実習生が指導の内容を共有しながら、日々の保育の反省を行うことができた。

ふれあい実習、観察実習の実施、ボランティアでの保育参加、大学での園外保育への参加など、9月の主免教育実習前に実際の園や子どもの様子を見ることで、教育実習のスタートをスムーズにすることができている。受け入れる本園としても教育実習生一人一人の良さ等を事前に把握できることにより、実習期間中の指導・対応もしやすい。

学級配当は実習生の希望も考慮して配属している。学生にとっても主免教育実習前の準備などがしやすく、教育実習期間中だけは十分にとれない教材研究の時間を確保することにつながっている。

学生の姿からは、教育専門職にふさわしい実践的能力や研究態度を身に付けようと一生懸命実習に取り組もうとしており、子どもとともに生きるという基本事項についての気付きや課題の明確化をそれぞれが図った結果、実習最後の反省会の内容や実習の記録から多くの成果が得られた実習となったことがわかる。

基礎インターンシップ・総合インターンシップでは、今年度も多くの成果を得ることができた。柔軟な指導内容が設定可能になったことで、主免実習に近い指導内容を維持できるようになり、園生活の中で院生自身が自ら考えて行動する姿が増え、園運営に自主的な姿勢で向かうことができていた。

大学の教員及び附属学校校長で構成されている実地教育専門部会にて、プロジェクトとともに充実した教育実習の在り方について話し合い、大学と附属校との連携を図っている。

### 【改善を要する点】

毎年の課題となっているが、保育指導案・資料作成と、保育環境の構成について、特に研究保育や評価保育の前は、指導案作成に時間を割いてしまう傾向にある。しかし、ICT化が進み効率よく保育指導案・資料作成に取り組む事ができているが、その反面チャットGTP等に指導案の言葉を修正してもらったり、書いてもらったりすることも出てきている。保育は、ICTでは叶わない生身の経験やその人の思いや考えが大切になってくる。環境を通して行う幼稚園教育は、人も環境の一部である。そのため、ICTに頼るのではなく、実習生が今できることを考え指導案を作成してもらいたい。効率化と手間をかけるところのバランスを取っていきける状況をつくっていく必要がある。

主免実習後、紙媒体のまとめた実習録の提出までに一定期間があくため、実習最終週の記録などの提出が一部の学生の中で遅れてしまうことがある。学習管理システム（Teams）を使用することで園に出向かずとも提出できるので、最終週の記録についても提出

日を伝えておき、記憶の新しい内に指導ができるように今後は改善する。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

Ⅲ 自己評価別添根拠資料一覧

評価項目	別添資料番号	資料名
1	別添1-① 別添1-② 別添1-③	令和7年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果 令和7年度幼稚園評価アンケート結果 生活プラン(2014.8.1発行)
2	別添2-① 別添2-②	ほけんだより2月号(2025.2.4発行) 令和7年度安全管理計画-危機管理マニュアル
4	別添1-③ 別添4-①	生活プラン(2014.8.1発行) 令和7年度幼児教育研究会アンケートグラフ・まとめ
5	別添1-①	令和7年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
6	別添1-②	令和7年度幼稚園評価アンケート結果報告書